

## 株式会社コンサドーレ 御中

初めまして。私は、アフリカのウガンダという国で青年海外協力隊として活動している岡村舜一と申します。今回はサッカーボール、ユニフォーム、ゴールキーパーグローブをご寄付していただきありがとうございました。初めに、私が活動している任地と贈呈先の Christ tower secondly school のご紹介をさせていただきます。

### ウガンダ共和国



国名	ウガンダ共和国
面積	約 24.1 万km <sup>2</sup> (日本の本州とほぼ同じ)
人口	約 3903 万人
首都	カンパラ
言語	英語、スワヒリ語、ウガンダ語 (多種)
通貨	ウガンダ・シリング
宗教	キリスト教(60%)、伝統宗教(30%)、イスラム教(10%)

ウガンダ共和国は、「Pearl of Africa(アフリカの真珠)」と呼ばれており、周辺アフリカ諸国と比べると、木々が多く青々とした大自然が広がっています。日本のような四季はウガンダにはありませんが、年に二回の雨季があり、野菜・稲作農家はこの雨季を逃さないようにしながら作業を行っています。また、サッカーはアフリカ全土でとても人気があるのはもちろんのことですが、2018年のロシアW杯にはエジプト代表に阻まれ惜しくも本選出場を逃すも、アフリカの強豪国ガーナを退け2位につけるなど、あまり知られてはいませんが実力のある国なのです。



## 贈呈先 Christ tower secondly school



### 学校概要

生徒数は 200 人程で、元公立学校の教師兼農家であった Richard が校長先生として勤めている私立小学校です。アフリカの多くの国々でもそうであるように、ここウガンダでも教育費を払えなくなった家庭の生徒が途中で学校を辞めざるを得ない状況に立たされることが多くあります。生徒の意思に関わらず、学校で学ぶ機会を奪われる環境は変えなければならないと考えた Richard は、自らの農業で得た収入に先代のボランティアの方々の協力も得ることで、公立学校よりも低い授業料を設定したこの学校の設定に至りました。

### 背景

先代の隊員の方々が日本の文化紹介や簡易釜戸の製作を通してこの学校の校長先生と深い関りを持っていました。私自身のメインの活動は稲作農家の所得向上でありましたが、活動が軌道に乗り、少しずつ余裕が出てきた時にサッカーの授業をしてほしいとの願いがありました。

目的： District level（地方）のリーグ戦に参加すること



※このリーグ参加にあたってネックとなっていたのが…

①ユニフォーム作成 ②練習用具 ③リーグ戦参加登録費（比較的安い）

⇒今回のご寄付のおかげで、①と②の問題が解決し、また①と並行して③の経費を考えていたため困難だったのですが、③のみの経費となったためリーグ参加への可能性がより高くなりました。また、勉強だけでなくサッカーやダンスなど得意なことを極めると、それもまた将来を切り開いていく力があることを学校の教員は理解してくれているので、全てにおいてとても協力的に関わってくれています。

## ☆練習風景

### ①パス練習



しっかりと止めて、蹴るのは難しかった様子！！

この学校の生徒にとって初の練習！試合とは違ってみんなが等しくボールに触れることができるので、とても積極的に参加してくれました。



少しずつ生徒の特長が分かってきました！！

これまではサッカーの授業といっても試合をするだけで、常にボールの周りに生徒が集まり団子状態に… ボールが来たらとにかく蹴る！が彼らのスタイルであったので、まずはしっかりとトラップしてボールを止めてからパスを出す、を意識してもらいました。

### ②ドリブル練習



☆ペットボトルマーカー  
中に砂を入れてマーカーの代用に。サッカーボールと同様、毎日大切に使ってくれていました。ウガンダでは大人も普通にゴミを捨てるので、それに違和感をもつきっかけになればと思い、ペットボトルを使いました。

細かいタッチに慣れない上に、グラウンドもとてもラフなので中々に難しそうでした。以前はボールが一つしかなく、このような個人個人の練習は困難でしたが、ご寄付いただいたサッカーボールによって生徒みんながボールに触れる時間が増えました。



これまではサッカーボールの代わりにバレーボールを使用していました。子どもたちは毎日我先にとボールの周りに集まって遊んでおり、練習後はあと片付けもしっかりと行い、いつも大切に使ってくれています。

### ③鳥かご



何をするんだ  
ろ?? ボールが  
来たらとりあえず  
蹴ろう!

最も教えるのに時間がかかったメニューでしたが、一番みんなの成長を感じた練習でもありました。初めは全くパスが繋がりませんでした。そんな時でもとにかくみんな笑顔で楽しそうにしている、改めて生徒みんなサッカーが好きなんだと実感しました。

#### ☆特に生徒たちに意識してもらった3つのポイント

1. パスの受け手、出し手が互いに名前を呼ぶこと
2. 常に顔を上げておくこと
3. できるだけパスが来る前にどこにパスを出せるのかを見つけること

### ④練習試合



ペナルティーキック



毎週水曜日が練習、金曜日は近隣学校との練習試合を行っていました。この写真を撮った日はクラスメイト同士の練習試合で、このようにどこの学校の生徒も体操服のようなものは持っておらず、制服のままプレーしています。この日は制服も同じクラスメイトであったため、片方のチームは上半身裸になってボールを追いかけていました。

☆最後に



子どもたちは本当にサッカーが大好きで、今回ご寄付いただいたことで地域リーグに参加し、そこでの試合を通して教員と生徒が成長するという同じ目標を共有することができました。まだまだ教え始めたばかりだったのですが、いつか日本に行ってサッカーがしたい、日本人の友達が欲しい、といったような言葉が聞けたときはとても幸せでした。本来であれば、4月半ば、もしくは5月頭にユニフォームの贈呈式を兼ねたイベントを開催する予定ではありましたが、コロナウイルスの影響で急遽一時帰国となったため、渡すことができぬまま一時帰国することになってしまいました。現在、ウガンダでは厳しい対策が取られており学校も休校状態となっています。娯楽の少ないウガンダでは、家庭で時間を余している子どもたちも多くいると思いますが、再びみんなとサッカーができる日を楽しみに辛抱してくれている生徒は必ずいます。私自身、今回の「世界の笑顔のために」プログラムを通じて、ボール一つでみんなを笑顔にして夢中にさせることのできるサッカーの魅力に改めて気付かされました。今は、日本でコロナウイルスが終息することを祈りながら、再び生徒たちと一緒にサッカーができる日を信じています。最後にはなりますが、改めまして、今回、このような機会をいただき本当にありがとうございました。ウガンダに戻った際は、またユニフォーム姿の生徒たちがプレーしている写真を送らせていただければと思っています。